








4. 幼児森林体験活動の実施にあたって


 「幼児森林体験」のフィールドとなる森林が確保できれば、次は実際に活動を始めるとなります。


 でも、公園などと違って遊具等が用意されているわけではない自然のままの森林でどんな活動をすればいいのでしょうか？


 この疑問に答えるために、今回整備した「海上の森 幼児森林体験フィールド」での実施例を示しながら、考えられる簡単な体験プログラムを紹介します。

 ただし、「幼児森林体験」では、幼児が自ら五感を使って森からいろいろなことを感じることが本来の目的です。

 したがって、ここで紹介するプログラムは、あくまでも幼児が森を体感する際に大人が手助けをしてあげるためのヒントに過ぎません。

 幼児を森に連れて行く保護者の方は心配なことが多くあると思いますが、子どもは本能的に森を楽しむことができます。

 まずは「海上の森 幼児森林体験フィールド」に来て、ここで紹介するプログラムを幼児に体験させてみて下さい。

 そして、みなさんの身近な森でもこの「幼児森林体験活動」を実施していただけることを期待しています。

子どもはみんな森が大好きです。大人も楽しさを共感してください。



森の中での体験は様々な要素がありますが、まず森の中の地面につもった落ち葉です。落ち葉を題材にしたものから始まり、森の木々の様子、季節毎に移り変わる森の様子、森に集まる小鳥たちの様子、樹液や花に集まる昆虫、美しく色づく木の実、切り株に残る年輪、美しいキノコ、落ち葉のすべり台、落ち葉のトランポリンなど無数に遊びが存在します。

幼児が遊びを見つけて動き出すのを大人は見守ってください。そして、体を動かす楽しさ、不思議なことを見つけたうれしさ、驚きなどに大人も共感してください。共感してくれる大人がいることで、幼児は体験したことをさらに印象深く心にしまえます。

森で遊ぼう！



森に入ったらちがいを感じよう！森の中は皆さんが毎日暮らしている家や町と違います。どこが違うのでしょうか？町や家の中は真っ直ぐな直線で区切られ、壁や床は平面です。町の道路や幼稚園の中も直線と平面です。森の中はどうでしょう？地面は平らですか？真っ直ぐな直線はありますか？堅くて平らな道路や床はありますか？そんなちがいをゆっくり観察しながらふわふわの落葉の森の中を歩きましょう。

五感を使って感じよう！

- ◆ 森の中は暗いの、明るいのか？
- ◆ 森の空気は冷たいの、暖かいのか？
- ◆ 森の中はどんな匂いがするのかな？
- ◆ 小鳥の声は聞こえるのか？
- ◆ 風の音は聞こえるのか？
- ◆ 地面は固いの、柔らかいの？
- ◆ どんな木があるのかな？
- ◆ ゆっくり観察をしよう。



自分の目で見えて、耳で聞いて、鼻で嗅いで、足で感じて体全体を使って森を感じさせてください。そして色んなちがいに気付かせてください。環境の変化を感じ取る感性こそが幼児期には一番大切なことです。森に来たら自分たちの日常の暮らしと違うことを感じさせることが大切です。

五感をつかって楽しもう！

感動

見ることが行動の始まりです、よく見ることから始めましょう。

五感

聴く

見えないものも聴くことで気付きます、耳を澄まして聴きましょう。

感動

触る

直接自分の感覚を使用して感じます、どんどん触ってみましょう。

行動

味わう

赤ちゃんは何でも口に運びます、人類の基本的な本能です。

体感

臭ぐ

目をつむっても、耳をふさいでも感じる事ができます。

幼児森林体験の効果

発育過程にある幼児にとって一番大切なことは多くの刺激を受けて脳の発達を促すことです。大脳生理学者の養老孟司さんが、「どんどん行動して新しい刺激を受けることが脳にとっては一番大切なことです。」と著書の中で述べています。人類の脳は経験したことの無い刺激を受けることで新しい能力が開き、可能性が拡大します。毎日変化のない生活を送ると脳は発達することをやめてしまいます。幼児にとっての森林体験はこれからの成長のために必要な能力を最大限に引き出すことができる脳を成長させるための大切な取り組みだと思います。変化の少ない環境で育った子どもたちが社会や学校の環境に対応できないまま育っていくことのないようにしたいですね。

◆ 服装と持ち物

《ぼうし》

《長そで》

《長ズボン》



《リュックサック》

- ・ 雨具
- ・ タオル
- ・ しきもの
- ・ ビニール袋
- ・ おべんとう
- ・ すいとう
- ・ おやつ
- ・ ティッシュ
- ・ 着替えのシャツ
- ・ 軍手

《あるきやすいクツ》

森遊びでは転んだり、木の枝で手足をけがをしないようにできれば長袖、長ズボンで出かけましょう。かぶれや虫さされの予防にもなります。



その他あったら楽しいもの

- 色鉛筆やクレヨン
- 絵をかく紙やノート
- むしめがね
- のりやはさみ
- 結ぶひも
- 鳥を呼ぶバードコール
- 鳥や植物の図鑑

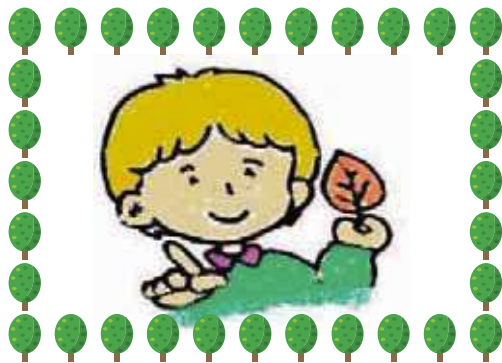


いろいろ工夫して持ち物を準備しましょう。

◆五感を使ったプログラムの具体例

おち ば 落葉のにおい!

においのちがいを感じよう!



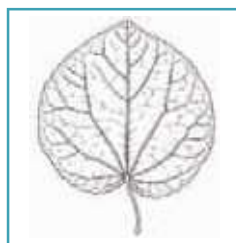
森の中で森のにおいを感じよう! 落葉のにおいも探してみましよう。色々なにおいがあるよ。

プログラム名	クン・クン落葉のにおい
フィールド	フィールド
プログラムのねらい	五感のうちの嗅覚を使うプログラムです。
対象年齢	3才以上
実施に適した季節	落葉が発酵し始める 12月～3月までぐらい。
実施時間	15～30分
準備する物	特になし
指導上の留意点	においのするタカノツメ、 カツラなどがある場所がよい。
安全対策	落葉の中のムカデに注意しましよう。 終わったら手を洗いましよう

実施の手順

導入	まず森に入ったらゆっくり森を観察します。 森の中の様子を感じながら森のにおいに気付かせます。
展開	森の中を移動しながらにおいを探します。 においに気付いたらみんなでかいでみましよう。 落葉のにおいか確かめます。
まとめ	見つけたにおいを確かめます。 においを言葉で表現させます。 好きか嫌いかを聞いてみましよう。 その木を見つけて名前を教えます。
アドバイス	親子で体験を共有させる時は落葉を持ち帰る。

自然の中で暮らす野生の動物たちの多くは、人間で言う「近視」です。そのため野生の動物は主ににおいや音で気配を感じます。動物に近づくときには風下から近づきます。熊よけには鈴をつけて音で熊に気付かせます。私たち人間は情報の90%を目から得ています。幼児の発達のためには目、耳、鼻、味覚、触覚のすべてを使い機能を発育させることが大切です。



カツラ

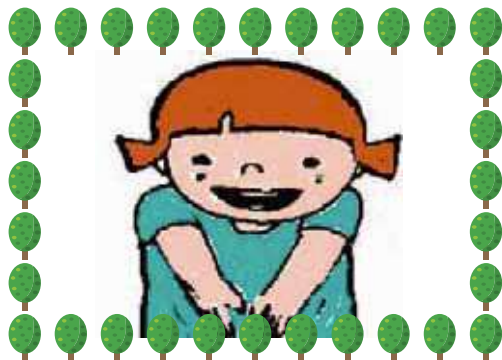


タカノツメ

◆五感を使ったプログラムの具体例

さわ 触ってみよう!

手触りのちがいを感じよう!



森の中で木の幹や、木の実、葉っぱやキノコ何でも触って見よう。どんな感じがするのかな?

プログラム名	チクチク?ツルツル?
フィールド	葉っぱの広場
プログラムのねらい	五感のうちの触覚を使うプログラムです。
対象年齢	3才以上
実施に適した季節	木の実が沢山落ちる季節がおもしろいかも!
実施時間	15~30分
準備する物	特になし
指導上の留意点	手触りのちがいが種類のちがい、いろいろ触ってみましょう。
安全対策	トゲやイガなどに気をつけましょう。終わったら手を洗いましょう。

実施の手順

導入	まず森に入ったらゆっくり森を観察します。 森の中の様子を感じながらいろいろな物を触ってみましょう。
展開	森の中を移動しながらどんなものを探るかテーマを与えます。 チクチクしたもの、ツルツルしたもの、ざらざらしたものなど、テーマにそったものを周りから見つけます。
まとめ	見つけたら、みんなで触ってみて、そのものの名前を教えます。 自分でみつけたものの状態を言葉で表現させましょう。
アドバイス	親子で体験を共有させる時は、ドングリやマツカサなどを持ち帰ります。

テレビでものを見てもそのものが堅いのか、柔らかいのか、重いのか、軽いのかは判りません。言葉や画像で見たものの本当の姿は触ってみないと判らないのです。冷たい水と言われてもどのくらい冷たいのかはその水を触ることでは判断できないのです。触る体験をたくさんした人は想像力も豊かになります。触ること=体験することが大切です。



イガグリ



マツカサ

◆五感を使ったプログラムの具体例

たべてみよう!

あじのちがいを感じよう!



森の中で小鳥たちが食べている木の実は美味しいのかな? ちょっと食べてみよう。

プログラム名	甘い? すっぱいの?
フィールド	葉っぱの広場・周辺
プログラムのねらい	五感のうちの味覚を使うプログラムです。
対象年齢	3才以上
実施に適した季節	木の実がたくさんなる秋の季節がおもしろいかも!
実施時間	15~30分
準備する物	特になし
指導上の留意点	シャシャンボ、ソヨゴ、ガマズミなどをみわけます。
安全対策	赤い木の実で「シキミ」は猛毒で命にかかります。ヒヨドリジョウゴも有毒です。

実施の手順

導入	まず森に入ったらゆっくり森を観察します。 森の中の様子を感じながら、実のなっている木を探してみよう。
展開	森の中を移動しながら、木の実がなっている木を探そう。 草の実もさがしてみよう。見つけたらみんなを呼んで、先生に見てもらって安全なら食べてみよう。
まとめ	見つけたら、どんな葉の木になっているのか、どんな形をしているのかなど、みんなで良く観察をしよう。決して勝手に食べないようにしましょう。
アドバイス	親子で体験を共有させる時は少し木の实を持ち帰ります。

動物や小鳥たちが食べている木の実や草の実はどんなあじがするのかを体験させます。自然のものはみんなが食べている果物のように美味しくないことを体験しましょう。グミや野イチゴ、ドングリ、マキの実、山芋のムカゴ、栗冬イチゴなど様々な木の実があります。どれも決して美味しいとはいえないものばかりです、私たちが毎日美味しいものを食べているかを知るためにもぜひ体験してください。



シャシャンボ



フユイチゴ

◆五感を使ったプログラムの具体例

かん さつ

観察しよう!

小さなちがいを見てみよう!



森の木の葉がみんな違うのに気付いて！ 草の葉もみんなの顔と同じように違うよ。

プログラム名	どこがちがうの？
フィールド	葉っぱの広場
プログラムのねらい	五感のうちの視覚を使うプログラムです。
対象年齢	3才以上
実施に適した季節	若葉から落葉まで、草の葉でも行えます。
実施時間	15～30分
準備する物	特になし
指導上の留意点	探しやすい場所や、危険ない場所を選んで行いましょう。
安全対策	かぶれる草や木がない場所で行ってください。終わったら手を洗いましょう。

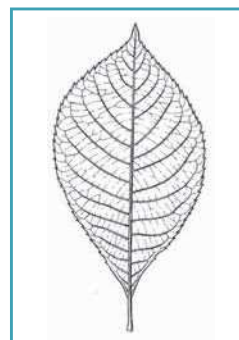
実施の手順

導入	まず森に入ったらゆっくり森を観察します。 森の中の様子を感じながら木々の姿のちがいに気付かせます。
展開	森の中を移動しながらいろいろな木の葉を探します。 それぞれの葉のちがいに気付いたら、みんなでどこがちがうか考え、種類のちがいを確かめます。
まとめ	見つけたちがいを確かめます。 どこが違うか聞いてみて、ちがいを言葉で表現させましょう。 その木を見つけて名前を教えましょう。

モミジとサカキのように明らかに違いのわかるものもあれば、シラカシとアラカシのようによく似ているものもあります。種類によって生える場所が違っていたり、環境が似ていると形が似てきたりします。色んなことに気付かせてください。一つの事実から多くの情報を引き出すことが気付きの感性です。ちがいに気付かないとその先の関心も起きません。関心がなければ進歩もありません。



コナラ



リョウブ

◆五感を使ったプログラムの具体例

もり おと き
森の音を聞く!

どんな音がするのかな!



森の中で森の音を感じよう! 小鳥やセミも探してみましょう。色んな音があるよ。

プログラム名	耳を澄まして聞いてみよう
フィールド	葉っぱの広場
プログラムのねらい	五感のうちの聴覚を使うプログラムです。
対象年齢	3才以上
実施に適した季節	春から夏に行くと小鳥や昆虫の鳴き声が聞けます。
実施時間	15~30分
準備する物	ビニールシート
指導上の留意点	昼食後のおなかがふくれたときが落ち着いて実施できます。
安全対策	急な斜面などでは危険です。平坦な場所を選びましょう。

実施の手順

導入	まず森に入ったらゆっくり森を観察します。 森の中の様子を感じながら森の音を聞かせましょう。
展開	昼食に利用したレジャーシートを森のいろいろな場所に敷いて、その上で寝ころび、空を向いて目を閉じてください。色んな音が聞こえます。(5分間ぐらい)
まとめ	いくつかの音が聞こえたか聞きます。 何の音かを聞いてみましょう。 好きか嫌いかを聞いてみましょう。
アドバイス	鳥などの鳴き声はまねをさせてみんなでも聞いてみましょう。

森の中で寝ころんで空を見ると、木々の枝やその間から見える空や雲、風で揺れるこすえの木の葉など普段は視界に入っていない世界が広がります。しばらく空を見せて気分が落ち着いたら静かに目を閉じさせましょう。目を閉じると今まで聞こえてこなかったかすかな音も聞こえます、しばらくするとそのままになってしまう子どももいます。風邪を引かないように。



セミ



シジュウカラ

他にも森の感じ方はいろいろあります

葉っぱで感じる

- 1 足下の落ち葉を拾って観察してみる。
いろいろな種類の落ち葉を集めることで、落ち葉の違いを知ります。
- 2 落ち葉のにおいをかいでみる。
落ち葉によってにおいが違うことに気付きます。
- 3 どんな匂いか言葉にしてみる。
匂いを言葉で表現することを覚えます。
- 4 落ち葉の葉脈を数えてみる。
木の種類によって葉脈の数が違うことに気付きます。
- 5 落ち葉と同じ色を見つけてみる。
黄色、緑、赤、茶色、いろいろな色の葉があることに気付きます。
- 6 落ち葉を順番にめくって見る。
落ち葉が土になっていくことに気付きます。
- 7 落ち葉の下を観察してみる。
ミミズ、ヤスデ、ダンゴムシなど多くの昆虫を発見できます。
- 8 落ち葉を太陽にかざしてみる。
日差しが通過してくる葉と、あまり通らない葉があることに気付きます。
- 9 落ち葉の形を比べてみる。
様々な形があることに気付きます。
- 10 落ち葉の穴は何の穴か聞いてみる。
木の葉を食べる虫がいることに気付きます。



木の幹で感じる

- 1 木の幹に触ってみる。
樹木により木の幹の肌触りが違うことに気付きます。
- 2 木の幹に紙を当て、鉛筆やクレヨンでなぞって幹の模様を写してみる。
幹の凹凸の違いに気付きます。
- 3 木の幹の暖かさを比べてみる。
樹木により冷たかったり暖かさが違うことに気付きます。
- 4 木の幹を他の木の枝でたたいてみる。
樹木によって鳴る音が違うことに気付きます。
- 5 木の幹に耳を当ててみる。
樹木によって聞こえる音が違うことに気付きます。
- 6 倒れて腐っている木の幹をほぐしてみる。
幹の中に幼虫や昆虫がいることに気付きます。
- 7 枯れ木にあるキツツキの穴を捜してみる。
枯れ木も小鳥に必要なことに気付きます。
- 8 腐った倒木のキノコを探してみる。
キノコが樹木を分解することに気付きます。
- 9 立ち木に付いているキノコを探してみる。
弱ったり、枯れている木にキノコが付くことを知ります。
- 10 切り倒した木の切り株の年輪を数える。
木の年齢がわかることを知ります。



ものづくりで感じる

子どもたちの豊かな感性は小さな小枝、木の実、落葉からいろいろなものを考え出します。その豊かな感性は大人にはとても太刀打ちできません。子どもたちの創造力を十分に発揮させ、育てるために自然にあるものを利用して楽しく遊ばせましょう。子どもの発想や発見を見守ってあげてください。

- 1 動物や生き物に似た小枝を探してみましよう。
日本には古くから見立ての文化があります。盆栽などもその一つです。
- 2 枝や切った木材で間仕切りをしたり、小屋を造りましよう。
隠れ家や秘密基地を作るのも一つの学習です。
- 3 きれいな花を集めて飾り付けてみよう。
幼児はきれいなものやカワイイものを集めるのが大好きです。
- 4 枝を組み合わせて色んなものを作ろう。
車、怪獣、ロケットなどいろいろ夢をふくらませましよう。





5. リスクマネジメント・安全管理

幼児の森林体験活動の中で一番注意をしなければいけない事項は「安全の確保」です。特に幼児は大人のように危険を未然に察知したり、経験から危険を避けたりする事はできません。したがって、活動をさせるためにはまず危険を排除することが最優先されます。危険には、事前に察知できる危険、下見などで発見できる危険、突発的な危険、予知不可能な危険など様々な要素があります。しかし、それらの多くは未然に防ぐ方策をとれば避けられる危険が大半です。危険回避のための準備や方策を学び、より安全な森林体験を実施してください。

◆事故発生のメカニズム

安全でない状況 × 安全でない行為 = 事故の発生

1. 安全でない状況… ～環境的要因～

- 天候によるもの……大雨・吹雪・台風・雷・酷暑など
- 災害など……地震・火事・崖崩れ・増水・津波など
- 植物など……かぶれ・とげ・花粉アレルギーなど
- 動物など……イノシシ・クマ・サル・野犬・毒ヘビなど
- 昆虫など……ハチ・ムカデ・ダニ・ヒル・ツツガムシなど

■危険な植物

自然の中で活動するときに、危険な植物の代表が「ウルシ」です。ウルシにはツタウルシと普通のウルシの2種類があります。一般にはウルシを注意しますが実はツタウルシの方がかぶれは強いのです。今回ツタウルシとウルシの両方を紹介します。是非覚えておいてください。6～9月ぐらいが一番かぶれやすい時期です。紅葉し始めると少しカブレにくくなります。外で遊んだら必ず手洗いをしてください。できれば長袖長ズボンで活動してください。



ウルシ



ツタウルシ

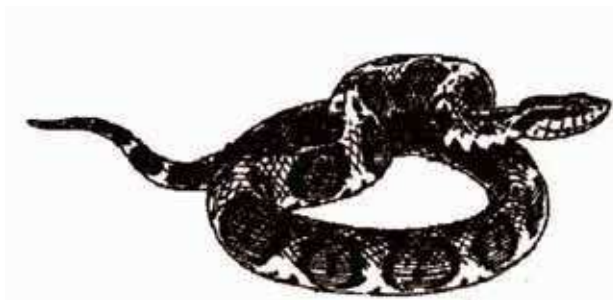


1. 安全でない行為… ～人的要因～

- 安全に対する認識と理解の不足
- 安全に対する知識の不足
- 危険に対する感受性の不足
- 対応する能力の不足
- 能力があるのにやらない（サボタージュ）
- 規律にたるみがある
- 指導や教育が徹底してない



これらの問題は普段からの教育と訓練である程度解決できます。普段から認識をして常に心がけていることが大切です。



マムシ



【事故発生時の対応】

事故はまず未然に防ぐのが一番ですが、もし不幸にも事故が発生した時には、速やかで適切な対応が事故の被害を最小限で食い止めます。普段から事故防止とともに適切な対応を学び心がけることが、結果的に事故防止につながります。未然の対策と合わせ、事故発生時の適切な対応を学んでおきましょう。救急措置や、救命法なども身につけておくことが大切です。

〔1〕 事故の発生を誰がどのように連絡するのかを決めておく

事故発生時に患者に付き添う人と、それを速やかに連絡し、どのように救助するのかといった役割を決めておくことは、一刻を争うときにはとても大切です。どの場所であれば携帯電話がつながるかなども事前に調べておきましょう。

〔2〕 事故の発生を誰がどのように連絡するのかを決めておく

事故発生時に患者に付き添う人と、それを速やかに連絡し、どのように救助するのかといった役割を決めておくことは、一刻を争うときにはとても大切です。どの場所であれば携帯電話がつながるかなども事前に調べておきましょう。

〔3〕 他の参加者の安全確保をする

落石やスズメバチの被害の時などは、できるだけ速やかに現場を離れることが他の参加者の安全を守り、二次災害を防ぐこととなります。

〔4〕 被災者の家族や地元の警察などへの連絡を誰がするのか決めておく

被災者の救助が終わり次第、被災者の家族や地元の警察などへの連絡を誰が行うのか決めておきましょう。

〔5〕 被災者に付き添う人を決めておく

被災者は非常に不安な心理状態おかれています。信頼できる人が付き添い、少しでも不安を和らげてあげましょう。

〔6〕 事故の経緯や対応を記録する

あとで反省をするときや、今後の事故防止に役立てるため、できるだけ正確な記録を残しておきましょう。

